

桃輸出拡大に期待

Jフルーツ山梨^A 害虫検査装置を披露

【フルーツ山梨】JAフルーツ山梨は23日、山梨市のJA後援施設「フルーツセンター」で、山梨大学が開発した「モモシンクイガ検査システム」の実演会を行った。桃の輸出货量を増加させ、リンゴや梨などの果実にも広げていくことで、国内農業の活性化につながる期待の装置。実用化の動きに注目が集まっている。



検査装置を操作する中澤組合長ら

同県では、台湾向けの桃輸出の増大に努めている。その際に、台湾の検疫上、幼虫が果実内に存在しないことが求められる。

ふ化直後、モモシンクイガの幼虫の食入孔は直径0.2mm程度と極めて小さく、発見は困難だ。目視検査での全数検査を行うものの、労力が必要で、幼虫を完全に検出できないのが実情だ。加えて、果実を手でつかんで作業するため、加圧による変色などの品質低下も生じやすくなる。

同大学は問題解決を図り、X線を利用して果実を複数方向から撮影する「モモシンクイガ検出アルゴリズム」と、柔らかくて傷みやすい果実を保持・回転させる「検出装置」を、国と農林機構生研支援センターの支援を得て開発中だ。

検出装置にはX線を遮断する扉が設置されているため、操作者などの人体への影響はない。また、大画面タッチパネル式で誰でも簡単に操作できるのも特徴。今後の課題は検査時間の短縮で、今よりも高速に処理ができるように研究を続ける。3〜5年後の普及を目指す。

JAの中澤昭組合長は「桃の大玉果の販路として、台湾は大きな魅力。この装置の完成に大きな期待をしている」と話す。同大学の小谷信司教授は「複数の生産地による試験を重ね、導入に向けて検査装置の調整を進めたい」と意気込む。



14高校が参加した「ホテル朝市」(25日、千葉市で)

農業系学科のある千葉県の県立14高校が25日、各校の農産物を販売する「ホテル朝市」を、千葉市内のホテルで開いた。「高校生が作った野菜を売ってます。ぜひ寄ってください」とPRした。

イベントは11回目で、「ホテルポートプラザちば」が毎年実施している。県高等学校教育研究会農業部会、県立農業大学校などが協力した。

千葉県立14校 ホテルで

農業系14校 ホテルで

シャムなどの加工清水高校食品科調理パンなど4と、シャム3種を売させた。

「トマトの試食は、8校のトマト大皿に盛って提灯べ比べ、「甘い」

どこ感想を述べて 今年、高校生物をホテルの料理 コラボ商品をホニ提供。下総高校業高校の卵、鶴トマト、安房拓ルト、流山高校ンなどを使った。

高校生が朝市出

を身近に感じてもらおうと、毎年実施している。部員が育苗したサニーレタスなど、5品種を混合した苗約1000株を贈った。

役員8人が手分けして、市内の20園に配布した。私立西秦野幼稚園をを訪れた高橋正宏委員長は、園児に「大事に育ててね」と声を掛けながら苗を手渡し、直ぐ

農業を身近に 園児に苗配る

【神奈川・秦野】JAはだの青年部はこのほど、秦野市内の幼稚園や保育園に、サラダレタスの苗を配った。園児に食や農



「湘南の輝き」を選果機に入れる守屋組合長

ハウスミカン出番

神奈川・JA湘南 贈答用に人気

春生